

2022年度 郡山女子大学短期大学部入学者選抜における アドミッション・ポリシーおよび入試内容等について

高大接続改革(文部科学省)

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。このためには、「学力の3要素」(1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力、3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を育成・評価することが重要であり、義務教育段階から一貫した理念の下、「学力の3要素」を高校教育で確実に育成し、大学教育で更なる伸長を図るため、それをつなぐ大学入学者選抜においても、多面的・総合的に評価するという一体的な改革を進めていく必要があります。

これまでの「知識の習得を中心とした教育」から「学力の3要素」に重きを置いた教育となることから、本学の選抜方法が変わります。

本学の選抜においては、学力の3要素を多面的、総合的に評価するために、基礎能力調査、調査書、活動報告書、入学希望理由書等出願時における書類、面接、小論文、プレゼンテーションを実施いたします。また、選抜に関し、以下のことを追加事項とします。

- 「知識・技能」を評価する観点から、入学後、大学教育を学ぶために必要な学力を有していることを出願要件とします。学校推薦型選抜においては、以下の要件を満たすことで出願できることとします。

健康栄養学科	評定平均値が3.5以上または、国語の評定平均値が3.5以上で、なおかつ理科及び数学のいずれかの評定平均値が3.5以上 ※専門学科・総合学科は、一部異なります。P.17を参照ください。
幼児教育学科	評定平均値が3.5以上または、国語の評定平均値が3.5以上で、なおかつその他の2教科が3.5以上
地域創成学科	評定平均値が3.5以上または、国語、地理歴史、公民、英語、美術のいずれか1教科が3.5以上

- 「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から面接を行います。総合型選抜においては、オープンキャンパス等に行う面接において、相談カルテを作成し対応します。

- 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から、「入学希望理由書」、「活動報告書」および「調査書」等の提出を求めます。資格や校内・校外活動における目的や意欲を評価します。

人材養成の目的 3つの方針

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)／教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)／学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

〈建学の精神〉

- 「尊敬」 お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること。そして他者においてそれを認めること。
- 「責任」 人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもちうること。
- 「自由」 学園の規則を守りながら、個人の求める、あらゆる自由な発想と研究とで個性豊かな人格を作ること。

〈入学者選抜の実施方針〉

本学は、学力を構成する重要な要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

健康栄養学科

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

建学の精神「尊敬」「責任」「自由」に立脚し、期待される社会人になれるよう人間性を育み、知性および感性の向上を目指すと共に、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を図ることを教育の目的としています。また、栄養士課程とフードスペシャリスト課程をもうけ、食と栄養に関する豊かな知識と確かな技術を通して、これからの社会に貢献できる栄養士とフードスペシャリストを養成することを目標としています。

1. 求める学生像

- 食、栄養および健康に関心を持っている人。(思考力・判断力・表現力)
- 調理の知識や技術の習得に積極的な人。(知識・技能)
- 本学科で学ぶ科目を理解するための、基礎学力を身につけている人。(知識・技能)
- 自分の考えを伝えることができるコミュニケーション能力がある人。(思考力・判断力・表現力)
- 思いやりの心を持ち、サービス精神を理解して多くの人々と協働できる人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

2. 求める学習の成果

- 短大で、教養科目や専門科目を学ぶ上で重要となる、読解力・語彙力などの「国語力」や割合(比率)の計算、パーセントを用いた濃度計算、単位換算、小数点の理解などの「計算力」の基礎的な知識を身につけていること。また、「生物基礎」や「化学基礎」に関する基礎学力についても十分に身につけておくこと。
- 自分の考えを言葉や文章、あるいは料理や指導媒体などのかたちと示すことができる表現力を有していること。
- 読書や趣味を通して主体的また自主的に学ぶ意欲をもち、さまざまな課題に向かい合い問題を解決に導く指導ができる思考力や判断力を有していること。
- 食の専門家として人間の健康と食生活をサポートするために、ボランティア活動などを通してサービスの精神を理解し、積極的に多様な人々と協働することができること。

□ 入学者選方法と評価のポイント

※本年度は新型コロナウイルス感染症による行動の自粛が続き、さらに各種活動の制限から各大会等も中止となっていることで、出願書類の作成にあたって、大きく影響を受けておられると思われます。本学では、出願書類の記載について、各種活動の結果や成果の他に成果達成に向けた努力の過程や工夫等もご記入いただきますことで、多面的・総合的に評価します。

＜総合型選抜＞

- 基礎能力調査では、「国語」と「数学」の「基礎学力」を評価します。日本

漢字能力検定3級以上を取得している人は合格証の写しを、実用数学技能検定4級以上を取得している人は合格証の写しを提出してください。日本漢字能力検定であれば「国語」の、実用数学技能検定であれば「数学」の基礎能力調査の代わりとして評価し、基礎能力調査の受験を免除することができます。

- 面接では、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」および「主体性を持ってさまざまな人々と協働して学ぶ態度」を評価します。そのため「高校生活で力を入れたこと」「高校での活動実績」「特技」等を裏付け自己アピールできる作品や資料を持参してください。アドミッション・ポリシーとの適合性についてもあわせて評価します。オープンキャンパスにおいて学科個別相談で作成する「相談カルテ」を、面接の参考資料として活用します。「相談カルテ」は、その学科個別相談時に配布します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」についても、面接の参考資料として活用します。

- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

＜学校推薦型選抜＞

- 「国語」と「数学」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

＜社会人・特別選抜＞

- 社会人、高等学校卒業程度認定試験合格者、外国人留学生および帰国子女は面接と基礎能力調査で評価します。
- 「国語」と「数学」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。

高等専門学校生・専修学校高等課程生は調査書、活動報告書、面接および基礎能力調査で評価します。

- 「国語」と「数学」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 面接において、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」について評価します。アドミッション・ポリシーとの適合性についてあわせて評価します。さらに願書とともに提出された「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「調査書」や「活動報告書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および自主性や主体性について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

< 一般選抜 >

- 「国語」の学力試験において、「基礎知識」と「思考力」について評価します。
- 面接内で課す「数学」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 面接では、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」および「主体性を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度」について評価するとともに、アドミッション・ポリシーとの適合性についてもあわせて評価します。
- 「調査書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および「自主性」や「主体性」について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

< 大学入学共通テスト利用選抜 >

- 学科の特性に合う知識と思考力を、大学入学共通テスト「国語」の得点で評価します。
- 面接内で課す「数学」の基礎能力調査において「基礎学力の知識」および「思考力」について評価します。
- 面接では、本学科の特性に合う「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度」について評価します。また、アドミッション・ポリシーとの適合性についてもあわせて評価します。
- 「調査書」は、その内容とアドミッション・ポリシーとの整合性および「自主性」や「主体性」について評価します。学習成績の状況および高校内外での活動状況を点数化して評価します。

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

健康栄養学科は、食と栄養に関する専門知識と実践力からなる専門性を発揮して、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を進めています。この教育目的を果たすため、社会の期待に応える栄養士とフードスペシャリストの養成を教育目標とします。このため、次のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)により、「単位の実質化」に配慮して入学から卒業まで効果的な学修が行えるようカリキュラムを編成しています。

1. 建学の精神と専門科目の理解に必要な共通基礎科目、食と栄養に関する基本的な専門科目を卒業必修科目として開講します。
2. 建学の精神に基づく人格形成と専門の探求のための科目を選択科目として開講します。
3. 栄養士とフードスペシャリストの養成を目標に栄養士課程とフードスペシャリスト課程を設け、必要な科目をそれぞれの課程の必修科目として開講します。
4. 栄養士課程の必修科目で栄養士業務の実務を学ぶ給食論実習Ⅲ(校外実習)には履修要件を設けて、履修する学生のレベルを対外的に保証します。
5. 高等学校までの復習を含む基礎的科目として、基礎自然科学、自然科学(生物)、自然科学(化学)を1年次に必修科目として開講します。
6. 基本的な科目から応用的な科目へと系統的に学べるように開講時期を配置します。
7. 卒業学年の12月に実施される栄養士実力認定試験とフードスペシャリスト資格認定試験に対応できるよう開講時期を調整します。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士(家政学)の学位を授与します。

1. 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
2. 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身につけている。
3. 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身につけている。
4. 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。
5. 卒業要件を満たし、GPA1.6以上を修めている。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけではなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、よい成績を取るよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される単位履修の手引きを確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

幼児教育学科

※チャイルド・ミュージックコースにおいては、授業料2年分で、3年間に在籍することにより、幼稚園教諭2種免許状および、保育士資格の両方取得できます。

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基に、豊かな人間性を備えた保育者の育成を目指します。

幼児教育学科では、幼稚園教諭と保育士の養成を目的とし、そのために幅広い専門知識と技術を身につけた人物を育成します。

1. 求める学生像

- 適切な言葉遣いに努め、さらに国語力を向上させる人。(知識・技能)
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、音楽的経験が豊かな人。(知識・技能)
- 子どもに向けた真摯で優しいまなざしと、保育に対する深い探究心を備えた人。(思考力・判断力・表現力)
- 自らを取り巻く自然や文化、人々の心情等に対する感受性を豊かに育む人。(思考力・判断力・表現力)
- 子どもを愛し、笑顔で子どもの心に寄り添える人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 志を同じくする仲間と共に、学びを深めることができる人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

2. 求める学習の成果

- 高校で学ぶすべての教科の標準的な知識や技能を土台とし、特に国語については、読解力・漢字の読み書き・文章表現について基本的な知識を身につけている。
- チャイルド・ミュージックコースにおいては、基礎的な歌唱力や楽器の演奏技術を身につけている。
- 高校(または出願まで)での学びや体験を通して培われたものを土台に、それを保育や大学の学びにどのように生かしていくかについて明確に述べるができる。

入学者選方法と評価のポイント

※本年度は新型コロナウイルス感染症による行動の自粛が続き、さらに各種活動の制限から各大会等も中止となっていることで、出願書類の作成にあたって、大きく影響を受けておられると思われる。

本学では、出願書類の記載について、各種活動の結果や成果の他に成果達成に向けた努力の過程や工夫等もご記入いただけますことで、多面的・総合的に評価します。

< 総合型選抜 >

アドミッション・ポリシーに基づき、特に面接に重点をおいた選抜を行います。

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価すると共に、小論文においては、テーマに基づいた内容・文章構成・誤字脱字等の観点から評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。「自己の善さ」については、高校での活動実績や特技等を裏付けるものを持参して説明・披露するか実演してください。オープンキャンパスにおける学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。
- 「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「活動報告書」は、アドミッション・ポリシーを踏まえて主体性・協働性の観点から評価します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

< 学校推薦型選抜 >

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価すると共に、基礎能力調査の国語においては、読解力・漢字の読み書き・文章表現の観点から評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- 「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「活動報告書」は、アドミッション・ポリシーを踏まえて主体性・協働性の観点から評価します。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

< 社会人・特別選抜 >

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価すると共に、基礎能力調査の国語においては、読解力・漢字の読み書き・文章表現の観点から評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- 「入学希望理由書」は、面接の参考資料として活用します。
- 「活動報告書」は、アドミッション・ポリシーを踏まえて主体性・協働性の観点から評価します。(高等専門学校・専修学校高等課程のみ)
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

< 一般選抜 >

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価すると共に、一般入試の国語試験では、長文読解力・漢字を含む語彙力・思考力・文章作成力などを評価します。
- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

< 大学入学共通テスト利用選抜 >

- 基礎学力「知識・技能」として、調査書の評定平均値を数値化して評価すると共に、共通テストの国語の得点を用いて評価します。

- 面接では、アドミッション・ポリシーを踏まえて「思考力・判断力・表現力」「態度」を観点とした評価を行います。高校(または出願まで)で培ったものを土台として、大学で学ぶ姿勢や意欲について述べてください。
- チャイルド・ミュージックコースの音楽経験度調査では、音楽的素養を評価します。

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

教育・保育に関する専門知識と技術、幅広い教養を身につけた保育者を養成するため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

1. 教育・保育の本質を理解し、内容・方法を学ぶ科目を設けます。
2. 子どもの発達(心理的・身体的)を深く理解し、支援について学ぶ科目を設けます。
3. 保育の表現技術を身につけるための科目を設けます。チャイルド・ミュージックコースにおいては、この内容を更に強化します。
4. 保育を総合的に計画・実践するための科目を設けます。
5. 学修した知識や技術を統合し、問題を解決する能力を育成するために「卒業研究」を必修とします。チャイルド・ミュージックコースにおいては、全員ミュージカルを選択します。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけ、GPA1.5以上の学生に対して卒業を認定し、短期大学士(教育学)の学位を授与します。

1. 教育・保育の本質を理解している。
2. 保育内容を理解し、保育を総合的に計画し実践できる。
3. 子どもの発達(心理的・身体的)を理解し、子どもを支援することができる。
4. 保育を実践するための方法や技術を身につけている。
5. 感性豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。
6. 学修した知識や技術を統合し、問題を解決する能力が育っている。
7. 幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につけている。
8. チャイルド・ミュージックコースにおいては、更に一定水準以上の音楽表現が身につけている。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけではなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、よい成績を取るよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される単位履修の手引きを確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

